

今月の「農の現場」

農業生産法人 株式会社旦千花

同社が運営する農産物直売所「北総大地」は2/13にオープンしたばかり。主力野菜の「江戸菜」をはじめ千葉エコ認定農産物も店頭に並ぶ。敷地内の栽培ハウスは見学可。レストランも併設（八街市八街へ199-147《R409沿い》）☎043-440-0831 営9:00～16:00 http://www.11831.co.jp/

「農は健康産業」の想いを拓く 58歳新規就農の事業展開

国道409号線を成田から東金方面に進み、極楽寺辺りを過ぎると八街市の看板が目に入り、程なく「旦千花【ちばな】農園」の看板が左側に見えてくる。

同社取締役会長の大槻洋光氏は現在67歳。医療器具販売会社経営を離れた後、58歳で就農。年齢から勝手に推測すると、定年退職かその少し手前に趣味として始めたか、或いは企業の流行のようにもなっている農業参入の一つかと考えても不思議は無い。

しかし、旦千花農園は農業経営のビジネスモデルがしっかりしているとともに、農業に夢が持てるような事業展開を精力的に行なっている。

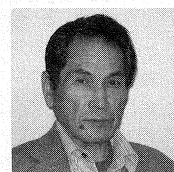


品部門を独立させ、有限会社江戸菜本舗を設立し、販売事業を展開するも平成11年に拓成と江戸菜本舗を営業譲渡し、東金に江戸菜の集配センターを開設。平成14年には八街に23haの農場を開設し、翌年にはカット・漬物工場を建設するとともに、機械製作部を設置し、野菜洗浄機など農業機械・機具の製作から制御回路の設計製作まで行っている。

現在の農場面積は40ha。常時雇用20名、臨時雇用70名、トラクター8台、軽トラ9台を抱えながら地域の協力農家20戸と力を合わせ野菜・麦・落花生などを生産販売している。

日量2〜3トンもの江戸菜を中心に人参・赤軸ほうれん草・大根などの朝採り野菜は、江戸川区中葛西の東京支社に運ばれ、翌朝には保冷トラック8台を使って帝国ホテル、オリエンタルランド、セブンイレブン

大槻氏は遠赤外線サウナ事業を手始めに、万田酵素や医療機器イーオンSGの販売事業のほか、有限会社拓成を起し、医療機器・健康食品の販売にも着手。平成9年には生鮮食



田正男【でんまさお】
ちばコープ理事長スタッフ。40年に及ぶ県庁生活のなかで平成4年まで農業改良普及員・農業専門技術員に加成え、全国農業青年育成研究会事務局長・会長に就任。現在は銀座での田んぼづくりなど農を起点に地域活性化のサポートに取り組む

など2500社に配達される。生産から販売までの全てを直接自分達で行うことが旦千花の強みと言える。

大槻会長は「100年続く会社でありたい」との想いを抱いている。命を繋ぐものは「食」、即ち「農」であるとの確信のもと、農は一次産業にあらず、健康産業であり、衣食住に関する会社としてその道を拓こうとする意欲が氏の活力になっている。

氏は、全国自然食品協会の関東支部長を6年間務めたほか、「千葉エコ農産物」の指定を積極的に取得するなど健康産業として農業を育て上げようとしている。同時に地域資源である落花生を使った加工食品を開発中で、地域との共生の想いも強い。

去る2月13日には直売所「北総大地」をオープンさせた。同社主力の江戸菜をはじめとする各種野菜の販売のほか、5月オープン予定のレストランでは旬の味を楽しめる。大槻会長の思いが詰まった直売所をぜひ一度覗いてみてはいかがだろうか。



日本を、食卓から**元気**にしたい。

ちばコープは、県内農産物の自給率向上に取り組んでいます



ちばコープ

http://chiba.coopnet.or.jp/